

日本人会館リニューアルへの想い

～馬場クラブハウス部担当理事、藤波コンサルタント 座談会～



1998年より皆様にご利用いただいた日本人会館が生まれ変わりつつあります。その大規模修繕工事に携わっていただいた、馬場クラブハウス部担当理事と藤波コンサルタントにお話を伺いました。

実施日：2025年5月15日(日本人会ラウンジにて)

聞き手：竹本副事務局長

会員からの声

館内が高級感に溢れている。/和モダンで綺麗になって嬉しい。/1階ロビーのソファが座りやすく、とてもリラックスできる。/クラブショップが大きくなり、商品が見やすくなった。/エレベーターの振動がなく、落ち着いた内装で乗りやすい。

馬場孝一郎(ばば こういちろう)氏 日本人会クラブハウス部理事

プロフィール：東レ株式会社入社、2012年東レインターナショナルインディア社 社長、17年 東レ株式会社 フィルムグローバル部 部長を経て20年より東レインターナショナルシンガポール社長。



藤波美知男(ふじなみ みちお)氏 コンサルタント

プロフィール：Fire Engineering Performance base Master Degree、シンガポールBuilding Science Master Degree、シンガポールFire Register Inspector License保有者、日本一級建築士、シンガポールの建築士ライセンスを保有し関係省庁への手続き・業務監督が行える邦人建設コンサルタント。

現在の日本人会館の建設プロジェクトに、1989年から日本設計と共に申請業務を行いプロジェクトの完成を担い、本館の第一期大規模修繕工事にも最初から、デザイン、申請、管理に携わる。



竹本英男(たけもと ひでお) 日本人会クラブハウス部担当 日本人会副事務局長

プロフィール：2021年より日本人会副事務局長で日本人会大規模修繕工事担当。



Q:これまで工事が完了した外観や内装をご覧になって、いかがですか。

馬場理事 私は建築に関しては全くの素人です。工事が始まる前は、図面や完成イメージ図を見て、「本当にこんなのできるのかな」と思っていました。今、一階の工事がほぼ完了していますが、イメージ図通りに出来上がっているのが、感動しています。作業中の現場にも入らせてもらいましたし、建築という仕事が自分にとって、とても身近になったと感じています。



藤波氏 個人的には、玄関からのアプローチ、そして、ロビーに入り、重量感と強さを感じるキャノピー、そしてシンプルであり日本の禅を感じさせる吹き抜け、そこを通り抜けてカジュアルダイニング「どんぐり」レストランのモダンなそして優雅さのある環境が、皆様の心を癒してくれるのではと思っています。



エントランス



大きなキャノピー（ひさし）

雨や日差しを避け、シャトルバス、タクシー、車の乗り降りにも活躍

Q:一階アトリウムのデザインは馬場理事のこだわりもあったとか。

馬場理事 修繕前の1階ロビーは壁側の陳列棚にトロフィーや、お知らせのポスター、チラシなどが乱雑に掲示されていました。学校や役所の玄関ロビーみたいだなと、ずっと感じていました。会館や同好会の情報はウェブサイトやSNSでも発信できますので、今回は全部撤去して、すっきりとしたロビーにしてみました。



エントランスから見た日本人会館のアトリウムとロビー
大きな吹き抜けとガラス窓から明るい光が差し込み
開放的な空間が広がる

Q:一階アトリウムに刀の鐔（つば）を用いた装飾がありますね。

藤波氏 はい、あれは2008年の改修工事のとき4階ラウンジの内装デザインに関し特に和のイメージをいかに演出するかを考えておりました時、刀の鐔のデザインがいいなと思いデザインに入れ込むことにし、ベトナムの彫金師を探し作成に至りました。壁面に積層ガラスそしてLEDを設置することにいたしました。

このロビーのデザインは和のイメージを演出しており、LEDに4色を設けることにより、朝(GREEN)、昼(BLUE)、夕陽(ORANGE)そして夜(PURPLE)の静かな雰囲気を醸し出すことが出来ました。

会員の皆様にも是非これらの雰囲気を味わって頂き、感じて頂きますと幸いです。



鐔（つば）には、笹のデザインが施されており
強い生命力と成長力の願いが込められているかのよう

Q:新しい日本人会館のコンセプトを伺わせてください。

藤波氏 建物もすでに27年が経過し、外観、内観とも疲れを感じさせておりました。

メインのモチーフは“木”を使うことを考えました。木は何千年も生きられます、そして人間の心を癒してくれます。木は自然そのものであり、全ての生き物にとって必要不可欠のものであります。

この木を穴あきアルミ版にデザインすることによってモダンなイメージを作り上げ、日本人会の会員の皆様が誇れる、建物デザインのコンセプトとさせていただきます。

一般的に内装デザインには石、ガラス、紙、木材が使用されますが、私は20年から30年という将来を見つめ、それに呼応するように金属を使用することによりモダンイメージを醸し出すことを考えました。また、窓にはベネシアンブラインド、そして床にはパーケットデザインを使用することによってクラシックとモダンの融和された空間を作り上げました。そして、音に関しては、吸音材を使うことにより静かな環境を作ることになりました。

Q: (座談会会場の) ラウンジも新しくなりましたね。

藤波氏 ラウンジに関しましては、やはり大きな間仕切り壁の高さ制限が課せられていましたので、いかに密閉空間を作り出すか、そして仲間を感じさせる空間であり、ある程度のクラスを感じさせるものを作ろうとしてまいりました。



インタビューの様子



改装後の日本人会館全景



改装前の日本人会館全景



外壁には穴あきアルミ版で“木”のモチーフに合わせたデザイン

Q:仕上がりには点数をつけるとしたら、何点くらいでしょうか？

藤波氏 出来上がりを見た印象では、90点くらいはあるかなと思っています。

馬場理事 では、私は95点をつけたいと思います。



出来栄に点数をつける藤波氏と馬場理事

Q:今回の修繕工事にあたり、苦労話などがあれば教えてください。

馬場理事 今回の大規模修繕の具体的な検討は2022年から始まりました。最初に申し上げた通り、工事に関しては全くの素人です。プロジェクトの進め方も全くわかりませんでしたが、会長や副会長、藤波さんのアドバイスをいただきながらなんとか進めることができました。工事着工に至るまでの承認作業も大変でした。年次総会2回、臨時総会2回の計4回の総会を経て、2年がかりで最終承認までたどり着きました。総会プレゼン資料はほとんど自分一人で作成しました。プレゼン資料を作るのは嫌いではないので、こちらは楽しくできました。

藤波氏 会員の皆様、そして理事の皆様のご理解とご協力のおかげで、ここまでプロジェクトを進めることができました。しかし、BCA(建築建設庁)から求められたバリアフリーに関する追加要件については、既存の建物構造や壁の位置などとの関係で、大きな課題となりました。また、どのプロジェクトにも共通することではありますが、お客様の図面や完成予想図(パース)に対するご理解、工事の実施時期でのご意向の変化などが、図面申請や施工計画に影響を与えることも多く、それにどう対応するかに常に頭を悩まされました。

Q:日本人会館が会員にとってどのような場であってほしいと思いますか。

馬場理事 新しい会館は10年、20年先の会員さんや職員さん達のことを見据えて作ったつもりです。あまり思い切ったことはできませんでしたが、未来の人たちが喜んで利用していただいていたら嬉しいです。

藤波氏 まず、会員の方が誇れる建物であり、使い勝手がよく、また、将来の使い方に対しても柔軟度があり、会員の方の全ての年齢層が楽しく使えるものであって欲しいと思っています。



新しいラウンジのカウンターでポーズを決める
(左から)藤波氏、馬場理事、竹本副事務局長



落ち着いた照明とデザインで高級感があふれるラウンジの全景



商品が見やすい店内のレイアウトで
楽しいお買い物をお楽しみください



新しくなったカジュアルダイニング「どんぐり」レストラン
シンプルで落ち着いたデザイン
女子会や家族団楽にもピッタリ！



楽しくお子様(3歳まで、必ず保護者同伴)に遊んでいただけるように
デザインされたピヨピヨハウス
ピヨピヨハウスの奥にはオムツ交換室があり便利



1階に診療所、検査室があり会館のエンタランスから
アクセスが良くなった日本人会クリニック



日本人会館のロビーにあるソファー
清潔感があり、やさしいサイドテーブルライトがさらに
落ち着いた空間を醸し出す



フロントは1階から2階に移動され、各階からのアクセスが良くなった。

編集後談

今回の座談会では、リニューアルされた日本人会館について、馬場クラブハウス部担当理事と藤波コンサルタントから貴重なお話を伺うことができました。建築や設計のプロセスには、専門知識がなければ理解しにくい点多々ありますが、お二人のお話からは、「未来を見据えて建てる」という一貫した想いと、現場に真摯に向き合ってこられた姿勢がひしひしと伝わってきました。

「日本人会館」という場所は、単なる建物ではなく、会員の皆様が集い、交流し、そして心を休める大切な拠点です。その空間が、より快適に、そして日本らしさを感じられる場として生まれ変わったことは、今後の日本人会にとって大きな財産になると感じています。

中でも印象深かったのは、「木」を中心に据えた藤波さんのデザインコンセプトと、馬場理事がこだわった「すっきりとしたロビー」です。お二人が、未来の利用者の姿を思い描きながら、細部にわたって丁寧に検討を重ねてこられたことが、今回の仕上がりからもよく伝わってきました。

このリニューアルは終着点ではなく、新たなスタートです。これからもこの会館が、多くの方に愛され、長く親しまれる場であり続けることを、心より願っております。

(日本人会 副事務局長 竹本英男)



新しいラウンジの入り口にて
(左から) 竹本副事務局長、藤波氏、馬場理事